

天皇	西暦	年号	月	おもなできごと
元正	718	養老2	—	阿部内親王（のちの孝謙・称徳天皇）が生まれる
聖武	742	天平14	12	弓削寺の僧 行聖が得度（出家）を申請：弓削寺の初見
	747	天平19	6	「沙弥道鏡」の文書：道鏡の初見
孝謙	749	天平勝宝元	7	阿部内親王（孝謙天皇）が即位
	753	天平勝宝5	4	「法師道鏡」の文書
淳仁	758	天平宝字2	8	孝謙天皇譲位、大炊王（淳仁天皇）が即位
	760	天平宝字4	3	萬年通寶の铸造
	761	天平宝字5	10	近江国保良宮（滋賀県大津市）に孝謙上皇が行幸、道鏡が看病禪師になる …（1）
	762	天平宝字6	6	孝謙上皇が出家
	763	天平宝字7	9	道鏡が少僧都になる
	764	天平宝字8	9	西大寺（奈良県奈良市）建立を発願／藤原仲麻呂の乱の後、道鏡が大臣禪師になる
称徳	765	天平神護元	10	淳仁天皇を廃し、孝謙上皇（称徳天皇）が再即位 …（2）
			9	神功開寶の铸造
			10～11	第1回目の行幸：5日間 …（3） 10月29日 紀伊国への行幸の帰り、弓削行宮に行幸 10月30日 弓削寺に礼仏する 閏10月1日 弓削寺に食封二百戸、知識寺に五十戸を施入する 閏10月2日 道鏡を太政大臣禪師に任じ、文武百官に道鏡を拝賀させる／弓削寺に礼仏する 閏10月3日 大県・若江郡の調・租を免じ、平城宮にもどる
			閏10	平城宮で留守百官に道鏡を拝賀させる
	766	天平神護2	10	道鏡が法王になる …（4）
	769	神護景雲3	1	平城宮西宮で大臣以下に道鏡を拝賀させる
5～10			宇佐八幡宮神託事件 …（5）	
10～11			第2回目の行幸：23日間 …（6） 10月17日 由義宮に行幸：由義宮の初見 10月21日 龍華寺に遊覧し、難波宮の綿・塩を施入する 10月30日 由義宮を西京とし、河内国を河内職にする 11月9日 平城宮にもどる	
1			由義宮の範囲に家がある大県・若江・高安郡の人々に対価を支払う	
770	神護景雲4	2～4	第3回目の行幸：39日間 …（7）（8） 2月27日 由義宮に行幸 3月3日 博多川で宴がおこなわれる 3月28日 葛井・船・津・文・武生・蔵の六氏の男女230人の歌垣がおこなわれる 4月1日 造由義宮大宮司の次官を任命する 4月5日 由義寺の塔の建設に伴い、諸司・雑工ら95人に位階をあたえる 4月6日 平城宮にもどる	
		8	4日 称徳天皇が平城宮西宮で亡くなる 17日に高野山陵（奈良県奈良市）に葬られる 21日 道鏡が造下野薬師寺別当（栃木県下野市）になる 26日 河内職を河内国にもどす	
		宝亀元	10	光仁天皇が即位
光仁	772	宝亀3	4	道鏡、下野で亡くなる …（9）

道鏡と称徳天皇の歴史年表

ゆげでら 由義寺の塔の物語

どうきょう しょうとく
～道鏡と称徳天皇が歩んだ10年～

かつてあった壮麗な七重の塔。
それは、道鏡と称徳天皇が
夢みたものでした。



ぼくたちが
紹介します。



八尾市 観光・文化財課

10年間で
あつた間



由義寺の塔の物語

～道鏡と称徳天皇が歩んだ10年～

発行年月日 2026年7月10日[増補版]

編集・発行 八尾市 魅力創造部 観光・文化財課

八尾市本町一丁目1番1号

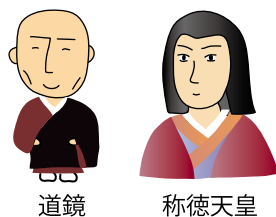
デザイン協力 NPO法人歴史体験サポートセンター楽古

現在の大阪府八尾市出身の道鏡と彼がささえた称徳天皇が歩んだ10年間の歴史と、
2017年に奈良時代の大規模な塔の跡が発見された「由義寺跡」を紹介します。

この物語の主人公

ゆげのどうきょう
弓削道鏡
(?~772年)

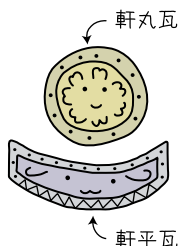
八尾に本拠を持つ弓削氏出身で、生まれた
年は不明。葛城山や東大寺で厳しい修行を
重ね、豊かな仏教の学識をもった僧。



4
ペー
ジに
系図
あり

しょうとく てんのう
称徳天皇
(718~770年)

父は東大寺を建立した聖武天皇、母は光明皇后。史上6人目の女性天皇
「孝謙天皇」として即位。その後、淳仁天皇に位を譲り、上皇になっ
たが、764年に称徳天皇として再び即位。八尾には3度来訪。



まるちゃん・ひらちゃん

この物語のナビゲーター
のきまるがわらのきひらがわら
由義寺跡の軒丸瓦と軒平瓦の
ようで話し方も違うようだが…



うどう きよ
有堂 清

この物語のナビゲーター
由義寺や道鏡について
教えてくれる親切な人だが…

ゆげであと 由義寺跡 の位置



ゆげであと 由義寺の発見

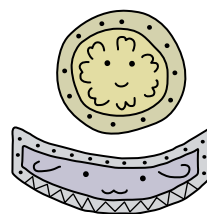
由義寺は、道鏡の故郷である弓削の地に称徳天
皇が建立を進めたと『続日本紀』にありますが、
建物が残っておらず、長らく幻の寺でした。

土地区画整理事業に伴う2016年9月の発掘調
査（八尾市東弓削3丁目）で、奈良時代の瓦が大量
に見つかり、2017年2月には巨大な塔の基壇
が発見されました。そして、2018年2月13日
に国指定史跡になりました。



発見された塔基壇

プロローグ

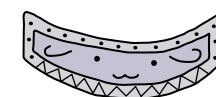


こんなところ



お〜い
いきなりやけど、
ぼくらは、いったい
なんなんや〜
気がいたら
こんなところに
ささっているし〜

きみたちは、
道鏡と称徳天皇が
建てた寺で、
2017年2月の発掘調査で
見つかった由義寺跡の瓦
じゃないかな？



道鏡？由義寺？瓦？
ぼくたちのこと
わかるんですか？
何もおぼえてないので、
くわしく教えてください！

わかったよ！
では、次のページから
道鏡と称徳天皇の
二人の歩みと
由義寺との関わりを
見ていこう

きみたちの名前は…
のきまるがわらのきひらがわら
軒丸瓦と軒平瓦って形の瓦だから、
「まるちゃん」と「ひらちゃん」って名づけようね

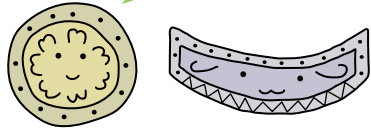
発掘現場に落ちてるしね…

(1) 出会いの地・保良宮

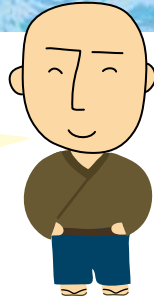
ほらのみや

761年
(天平宝字五年)

そもそも、ふたりが出会ったきっかけは？



平城京の北方にあった近江国の保良宮(滋賀県大津市)というところで、孝謙上皇(のちの称徳天皇)の病気を治したのがきっかけなんだ。



昔はお祈りをして病気を治したんだよ

道鏡は、孝謙上皇が淳仁天皇とともに訪れた保良宮(現在の滋賀県大津市)で、医療と仏教の知識がある看病禪師として上皇の病気を治し、信頼を得ました。

奈良時代の都

奈良時代(710~794年)の都でよく知られているのは平城京(奈良市)ですが、聖武天皇は、恭仁京(京都府木津川市)や紫香楽宮(滋賀県甲賀市)、難波京(大阪市)に都を移しています。

保良宮は、平城京の副都として置かれた「北京」といわれていますが、くわしい場所はわかっていません。



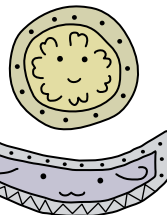
奈良時代の宮都の位置

- ①平城京(710年)
- ②恭仁京(740年)
- ③難波京(744年)
- ④紫香楽宮(745年)
- ⑤平城京(745年)

副都の役割ははっきりしないんだけど、中国の制度をまねたと考えられているんだ。また後から出てくる「由義宮」や「西京」も副都のようなものなんだよ。

※「さいきょう」と呼ぶこともあります。

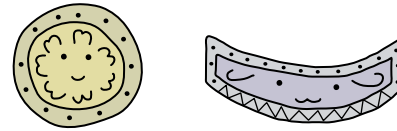
称徳天皇も、父である聖武天皇の都の造り方をまねしてたのかもしれませんね。



(2) 天皇、再び即位する

764年
(天平宝字八年)

即位して、どんな政治をおこなったん？



道鏡の影響もあって762年に出家していた孝謙上皇ですが、淳仁天皇とのいさかや、764年の藤原仲麻呂の乱の後、上皇は再び即位し称徳天皇となります。

そして、道鏡と共に仏教を中心とした政治を行いました。その象徴として、東大寺に対するお寺として西大寺を、その尼寺として西隆寺を建立しました。

ひやくまんとう 百万塔って？



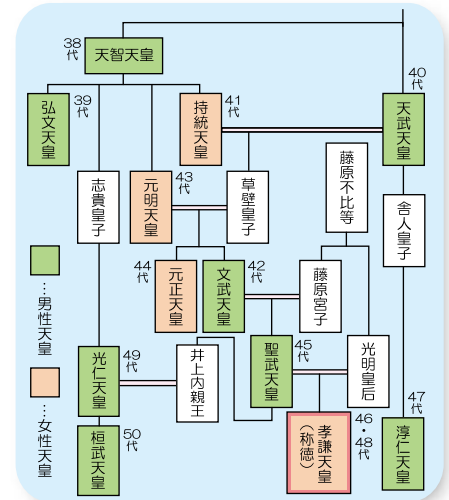
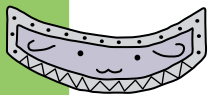
百万塔・百万塔陀羅尼

また藤原仲麻呂の乱の死者の供養のため、「百万塔」という高さ20cmほどの木製の三重塔を6年かけて100万個をつくり、薬師寺、興福寺、法隆寺、四天王寺など大きな10の寺に配りました。

この中には「百万塔陀羅尼」とよばれる鎮護国家を祈ったお経が納められました。このお経は、銅版や木版で印刷されており、また年代が明らかであるため、世界で最も古い印刷物といわれています。

百万個ですか!すごいね!!

称徳天皇は、再び戦いが起こらない平和な世の中にするために、仏教の教え、そして道鏡にも頼ったんですね

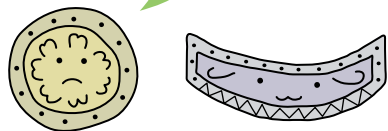


称徳天皇に関する系図

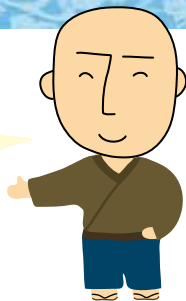
(3) 天皇が弓削に来る

765年
(天平神護元年) 10月

天皇が来るなんて大変とちゃうの？

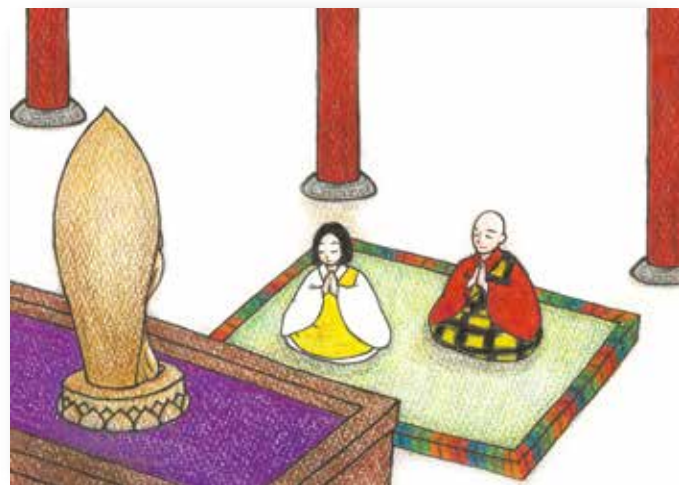


そうなんだ。称徳天皇を
お迎えするため、
弓削行宮(仮の宮殿)や
お寺を整備したみたいだよ。



道鏡は、紀伊国からの行幸の帰りに立ち寄る称徳天皇のため、のちの西京の造営のはじまりとなる宮や寺の整備を行ったと思われます。そして、弓削の地にやって来た天皇は、弓削寺で仏を拝むなど、5日間をすごしました。弓削寺は弓削氏の氏寺で、由義寺の前身の寺と考えられています。

そして、道鏡を僧でありながら最高の官職である太政大臣禪師に任じました。道鏡は故郷に錦を飾ったのです。

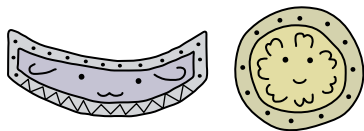


弓削寺で仏を拝む称徳天皇と道鏡(イメージ)

道鏡だけでなく、
弓削一族も出世していて、
道鏡の弟の弓削浄人は
大納言になり従二位と
なっているんだ。



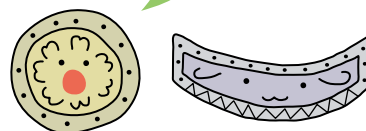
道鏡さんも天皇を迎えるまでになって
ほこらしかったでしょうね～



(4) 道鏡、法王になる

766年
(天平神護二年) 10月

道鏡さんは、さらに出世したんやって!?

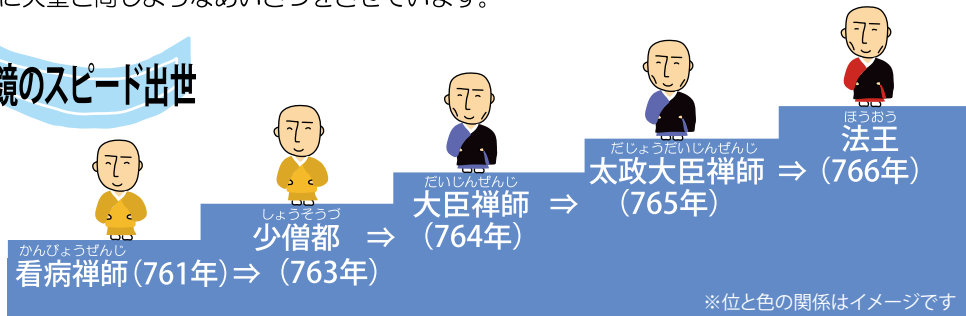


仏教を中心とした政治を
進めるため、豊かな仏教の
知識を持った道鏡を法王に
して、称徳天皇を支えたんだ。



道鏡は、僧侶としての最高の地位といえる法王になりました。法王になった人物は後にも先にも道鏡だけです。称徳天皇は、道鏡の立場を広く示すため、弓削行宮や平城宮で役人たちに天皇と同じようなあいさつをさせています。

道鏡のスピード出世



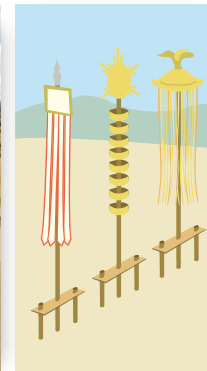
平城宮の幢旗跡

2014年に行われた平城宮西宮の発掘調査で、儀式の際に立てられた「宝幢」と「四神旗」の柱穴が見つかりました。

この柱穴は、765年の称徳天皇の元日の儀式、もしくは769年に道鏡が大臣などからあいさつを受けた時の遺構の可能性がありま



柱穴



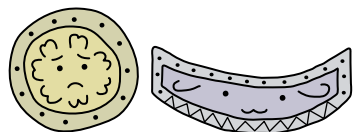
こんな旗を前にして、
法王になった道鏡さん
が立っていたかも
しれないですね!



(5) 宇佐八幡宮神託事件

769年
(神護景雲三年)
5月～10月

「事件」って物騒やな～
どんな内容なん？



道鏡を天皇にすると天下泰平になるという、
宇佐八幡宮の神さまのお告げがあったんだ。
だけど、皇族以外の者を天皇にするという
ビックリな内容だったので、真偽を確かめる
ため、和氣清麻呂という人が改めて派遣され
ただけど…



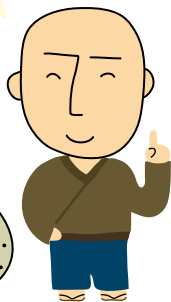
宇佐八幡宮に向かった和氣清麻呂は、道鏡の即位に反対するお告げを持ち帰ります。結局、最初のお告げのとおり道鏡が天皇になることはありませんでした。道鏡が自ら皇位を望んだのか、称徳天皇が道鏡を天皇にしようとしたのか、また誰かがくわだてたのかなど、いろいろなとそが多く、事件の真相は今も明らかではありません。

宇佐八幡宮と和氣清麻呂

大分県宇佐市にある宇佐八幡宮は、古くより信仰が厚いことから、そのお告げが重視されました。和氣清麻呂は、この事件の後、大隅国（現在の鹿児島県）に左遷されます。その後、光仁天皇の時代に復帰すると、旧大和川の治水対策を計画するなど、河内とのつながりもありました。

この事件が縁となって、
八尾市と宇佐市、和氣清麻呂
の出身地である岡山県和気町
は、それぞれ国内交流都市と
なっているよ。

事件は大変なこと
だけど…
これがきっかけで
現代では仲良く
なっているのは
すてきやね～

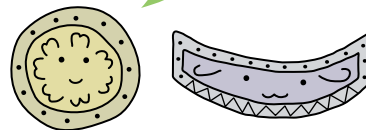


神託事件の舞台となった宇佐八幡宮（大分県宇佐市）

(6) 由義宮が都になる

769年
(神護景雲三年)
10～11月

八尾が「都」に!? くわしく教えて～!



さっきも少し説明した「副都」
ってやつだね。
平城京からみて西の都って
ことで、「西京」にすることが
決められたんだ。



神託事件のあと、称徳天皇の2回目の行幸が行われます。この時は23日間滞在し、これまで「弓削宮」としていたものを、縁起が良い漢字である「由義宮」に改められ、また由義宮を「西京」とする詔も出されます。

西京は、由義寺のあたりを中心にして、現在の八尾市の南部から柏原市にかけての広い範囲に計画されました。また「河内国」は、都として位置づけるために特別な行政地域として「河内職」になりました。

天皇は、龍華寺近くの川のほとりで「市」を開かせ、その様子を見物しています。西京が都に必要な「宮」・「寺」・「市」を備えていたことを示すためだったのかもしれませんが。

龍華寺跡の石碑

龍華寺の場所はわかってい
ませんが、長瀬川沿いにあったと
考えられ、寺があったとされる
八尾市立安中やすなか小学校の南西角に
は石碑が建てられています。

今はひっそりと石碑が
あるだけですが
当時は、にぎやか
だったのでしょうね～



安中やすなか小学校にある石碑



西京の造営は、どこまでおこなわれていたのか？

奈良時代の中河内は、聖武天皇や称徳天皇とつながりの深かった智識寺（柏原市太平寺）をはじめとした河内六寺や、国分僧寺や国分尼寺（柏原市国分東条町）などのたくさんの寺院が建立されており、仏教の盛んな地でした。

称徳天皇と道鏡は、天皇が政治を行うための「由義宮」と、国家が運営する官寺の「由義寺」を中心とした、都づくりを目指しました。都は、保良宮を「北京」と称したのにならって、平城京の西に位置することから「西京」と名づけられました。

西京か～じゃ由義宮の場所はどこ？



う～ん…くわしい
場所はわかって
いないんだけどね…



由義宮の正確な場所はわかっていませんが、由義寺は、西の長瀬川と東の玉串川の大きな河川にはさまれた沖積地の中央南側に位置しており、この2つの河川は都づくりのために重要だったのでしょ。

由義寺の北東部で、玉串川から分岐して南北に直線的に伸びる大規模な水路を確認しています。水路では、船着き場とみられる石組みなども見つかり、都づくりに必要な重たい瓦や材木などを船で運んだと考えられます。



東弓削遺跡第28次調査
(公財)八尾市文化財調査研究会提供

由義寺の北東部で見つかった
南北に延びる大溝(水路)



東弓削遺跡第28次調査
(公財)八尾市文化財調査研究会提供

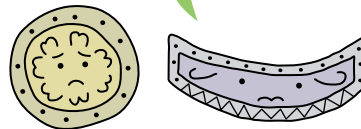
大溝(水路)の中から見つかった
船着き場と考えられる石組み

(7) 最後の行幸

ぎょうこう

770年
(神護景雲四年) 2～3月

えっ?「最後の行幸」って…
西京は完成してたのですか？



由義宮や由義寺の工事が行われ、
都のシンボルとなる塔は
できあがったようなんだけど…



称徳天皇の3回目の行幸は、770年の2月～3月にかけて39日間の長期に及び、西京をたたる歌垣が行われ、由義寺の塔の建設にたずさわった人々に位を与えるなど、都の建設が進んでいたことがわかります。

ゆぎ 由義神社と 2つの弓削神社

八尾市八尾木北5丁目にある由義神社の境内には、由義宮跡の石碑があります。神社の場所はこれまでの研究で由義宮の北端の辺りに位置していると考えられています。

その他に、八尾市内には式内社の弓削神社が、旧若江郡東弓削村（東弓削1丁目）と旧志紀郡弓削村（弓削町1丁目）にあります。



由義神社の「由義宮跡」の石碑

西京をたたる歌垣

「歌垣」は、川のほとりや市で男女が集まり、互いに歌を掛け合う行事ですが、この時期には宮廷儀礼のひとつになっていました。西京でも、葛井氏・船氏・津氏・文氏・武生氏・蔵氏の六氏の渡来系氏族の男女230人もの人々が参加した「歌垣」がおこなわれました。

次のページの歌は、西京をたえたもので、聖武天皇が平城宮の正門・朱雀門の前で歌垣をおこなっており、同じように「由義宮」でもおこなわれたと考えることができます。また、参加した男女が現在の羽曳野市や藤井寺市など南河内を本拠地とした氏族であることから、博多川の名に近い「伯太」という地名が残る石川（大和川の支流）のほとりでおこなわれたとの説もあります。



由義宮で行われた歌垣のイメージ (早川和子氏画)

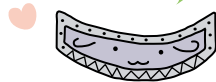
あり続けるであらう
いつまでも清流で
清く爽やかな博多川は
淵も瀬もよく澄んで、

淵も瀬も 清く英けし 博多川
千歳を待ちて 澄める川かも

乙女らに男が立ち添って、
足を踏みならして歌う
この西京の由義宮は、
永遠に栄える都であるよ

少女らに 男立ち添ひ 踏みならす
西の都は 万世の宮

歌垣か～
いろんな恋が
うまれたので
しょうね～



そうか～残念やな～
完成した西京を
称徳天皇にも
見てほしかったよな～



しかし、体調を崩した称徳天皇は、塔の完成をみた翌日に平城宮にもどり、その5ヶ月後の8月に亡くなっています。この3回目の行幸が最後となり、再び八尾の地に来ることはありませんでした。西京の建設は、天皇が亡くなったことで中止され、10ヶ月あまりの短い都となってしまいました。



由義宮で行われた歌垣のイメージ (早川和子氏画)

西京の造営の本気度は？

【歌垣の主催者】

●称徳天皇と法王・道鏡

【歌垣で和舞を舞った人物】

○河内大夫^{たいふ}従四位上・藤原雄田麻呂^{おだまろ} (のちの藤原百川^{ももかわ})

「河内大夫」とは、河内国から改められた河内識の長官で、西京造営の総責任者です。称徳天皇の信任が高く、藤原式家（藤原四家の一つ）を支えた優秀な人物です。のちに次代の光仁天皇の時にも活躍しました。

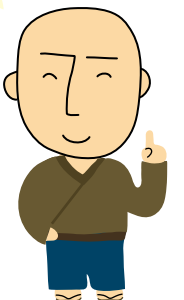
【歌垣の参加氏族】

○葛井氏・船氏・津氏・文氏・武生氏・蔵氏

南河内の渡来系氏族で、古くから弓削氏や藤原氏と関係が深かったとみられ、この六氏が西京の造営に関わったと考えられます。

歌垣の3日後に「造由義大宮司次官」に紀庭庭（河内亮）と内蔵若人（摂津亮）が任命されており、本格的に都づくりの体制を整えたことがわかります。

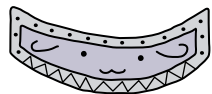
短命の都になってしまった西京。
でも、本格的な都にしたいと思って
いたようなんだ。それを歌垣に参加
した人から考えてみましょう～



(8)二人がみた由義寺の塔

770年
(神護景雲四年)
4月

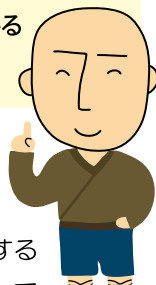
この右の文章って
なんですか？



続
日本
紀

詔して、由義寺の塔を
造りし諸司の人、及び
雑工等九十五人に、
労の軽重に随ひて、
位階を加へ賜ふ

これは、『続日本紀』にある
由義寺の塔の建設にたず
さわった人々に位を与えた
ことが書かれている
ところだよ。



続日本紀のこの記述は、称徳天皇の3回目の行幸の時のもので「由義寺」に関する情報はこれだけでした。この後まもなく称徳天皇が亡くなるため、塔があったとしても大規模なものではなかったとも考えられてきました。

しかし、2016年～2017年の発掘調査で、巨大な塔の基壇が発見され、幻の塔の様子が分かってきました。

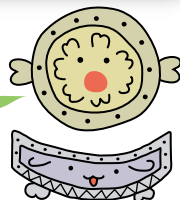
屋根を飾る瓦

出土した瓦をみると、西大寺や興福寺など、奈良時代に国が建てた寺院の瓦が約8割を占めていることから、国が建立に関わったことがわかります。



西大寺系(左)と興福寺式(右)の軒丸瓦と軒平瓦

これが見つかった瓦か…
って、あああ！
ぼくたちと同じやん！



そう
ですね！

巨大な塔の基壇

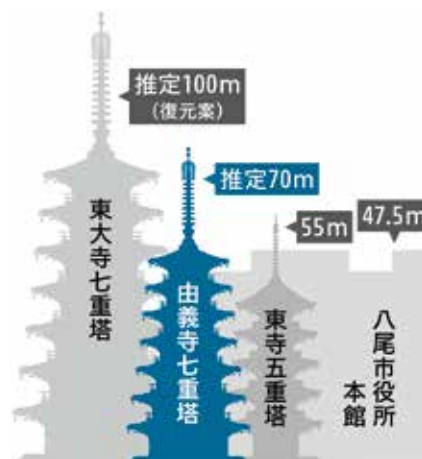
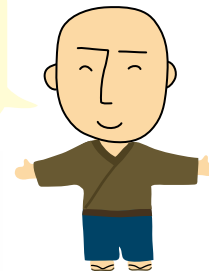
きだん

「基壇」とは、塔を建てるための土台です。基壇の表面を飾っていた切石や塔の柱を支えた礎石は、後世の開発や破壊のため残っていませんでしたが、発掘調査で一辺約20mの基壇があったことがわかりました。



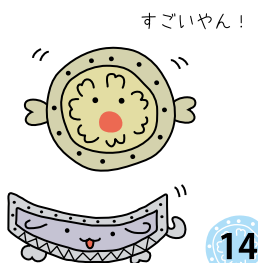
これだけの規模の基壇は、平城京にあった元興寺や西大寺の五重塔(約18m前後)より大きく、東大寺の七重塔(約24m)に及ばないものの、大安寺(約21m)に匹敵することから、由義寺の塔も七重塔であった可能性があります。

高さは、現存する木造建築では
日本一の東寺の五重塔(約55m)
を超えていたかもしれないぞ！



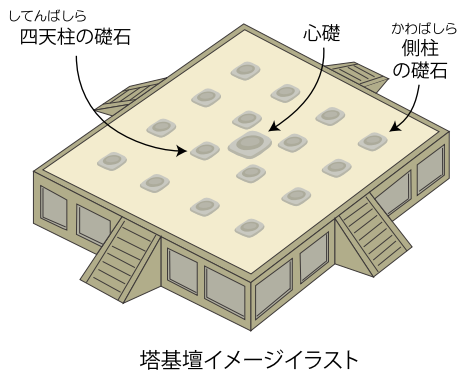
とても高い高い塔…。
あ～思い出した～！
確かに、ぼくたちの塔ですよ！

八尾市役所より高かった？
由義寺の塔



塔の礎石

塔の中心の柱を支えた心礎の石はなく、柱の位置もわかりませんでした。ただ直径約60cmの柱を立てたと考えられる円柱座をもつ礎石が見つっています。



塔で見つかったもの

塔基壇のまわりからは、塔の各層の屋根に葺かれていた、たくさんの瓦が出土しました。また瓦以外に、地鎮のために埋められた和同開珎や萬年通寶、神功開寶の貨幣、佐波理（銅に錫と鉛を混ぜた合金）鉤などが出土しています。瓦や石などに火を受けたあとがみられることから、時期はわかりませんが、塔は焼けてしまったようです。



わどうかいちん 和同開珎(708年初鑄) まんねんつうほう 萬年通寶(760年初鑄)
じんぐうかいほう 神功開寶(765初鑄)



さはりわん 佐波理鉤

屋根を飾った軒丸瓦・軒平瓦



おお～友だちがたくさんいるやん!



(公財)八尾市文化財調査研究会提供

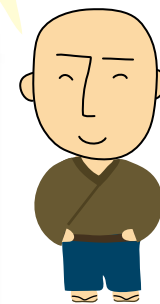
塔基壇の種類

発掘調査からは、瓦だけじゃなく、いろんな遺物が見つかった。これを見ると、立派な由義寺の塔の姿が想像できるんです。



塔に使われた埴・鉄釘・凝灰岩の切石

由義寺の塔は、基壇の規模やその官寺としての格から、凝灰岩の切石を使って化粧された基壇のうち、束石を使用した最も格の高い「壇正積基壇」であった可能性が高いと考えられます。また基壇を化粧した石材の出土は、塔が完成していたことを示しています。

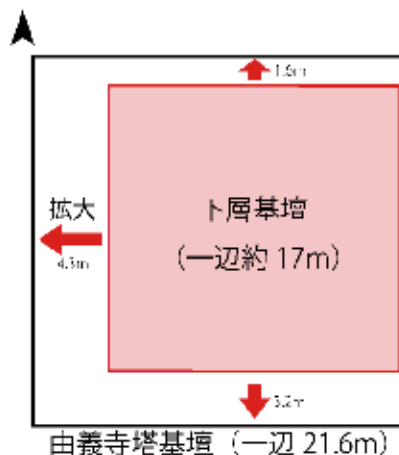


下層基壇の確認

由義寺の塔基壇の下層で、一回り小さな一辺約17mの正方形の基壇を確認しました。この下層基壇と周辺一帯の範囲を整地しなおして、その真上に約1.3倍の大きさに拡大した塔基壇を構築していたことがわかりました。



塔基壇の土層断面



由義寺塔基壇（一辺 21.6m）

由義寺の全体像

金堂や講堂など他の建物についてはわかっていません。ただ由義寺に近い時期に建てられた大安寺や東大寺などは、東西に2つの塔が建てられています。もしかしたら、由義寺も同じようであったかもしれません。

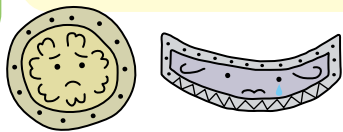
塔基壇の北東部で、奈良時代後期の瓦を中心に、凝灰岩の破片を含んだ瓦だまりを確認できました。塔とは別に基壇を有した建物が北方にあったと考えられます。



塔基壇北東部で確認した瓦だまり

基壇が拡大したり、まわりの建物についてもいろいろ謎があるんやな。それにしても、塔が燃えていたとは…ぼくらもその時に落ちてしまったんや…何となく思い出してきたわ

そうなのか～塔の最後は…これは知らなかったよ。じゃ、わたしは、仕事があるからそろそろ帰るよ。



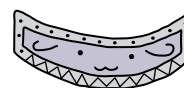
歴史民俗資料館に行けば友だちがいると思うよ。

一瞬の早着替えです～

(9) 別れの時…

770年(神護景雲四年) 8月

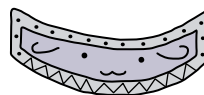
道鏡さんは称徳天皇が亡くなったあとはどうしたのですか？



うどうさ～ん！

下野での道鏡

道鏡さんって、天皇の座を狙ったという悪いイメージもあるらしいけど…
本当は、仏教の教えによって、天皇を支えていたのだと思います！
きっと！



きっとそうやわ！
塔が完成した時のふたりは本当にうれしそうやったもん！



あ～ごめんね。これだけ答えてから行くよ。
天皇のお墓のそばにしようと思ったんだけど、遠く離れた下野薬師寺の長官※として派遣されることになったんだ。

※ 造下野薬師寺別当

仕事はお坊さん→



下野薬師寺(栃木県下野市)は、東大寺や観世音寺(福岡県太宰府市)とともに、僧になるのに必要な儀式を行う戒壇があり、東国仏教の中心的な役割を担った寺です。道鏡が持っていた知識や経験を活かすことができたと思われます。

そして道鏡は、天皇のあとを追うように2年後の772年に亡くなりました。お寺の近くにはお墓があります。また「称徳天皇に仕えた2人の女官も一緒に来て天皇の供養につとめた」とか「天皇もこの地で一緒に亡くなった」など、道鏡にまつわる伝説が残っています。きっと政治の世界を離れ、都から遠く離れた地で仏教を広めるために力を尽くし、人々から慕われたことでしょう。



国史跡 下野薬師寺跡



道鏡塚(龍興寺境内)

それにしても有堂さんって、道鏡さんに似てるような…
「うどうきよ」
「どうきよう」
ええっ！！

あはは～よく言われるけど、ただの道鏡マニアだよ。
好きすぎて僧になったくらいだし。八尾出身だから、もしかしたら関係あるかもしれないけどね～

じゃくね



これで、由義寺の塔の物語はおしまい。道鏡と称徳天皇、2人がともに歩んだ10年は、八尾の歴史に大きな足跡を残しました。